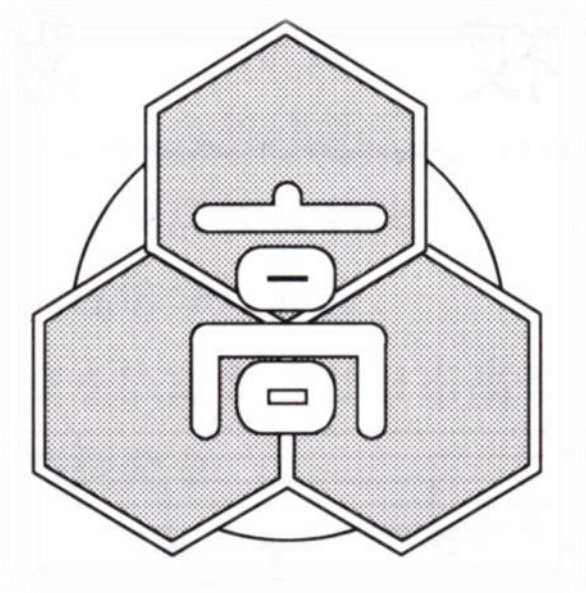


令和2年度学校経営計画  
年度末評価



広島県立廿日市西高等学校

令和2年度自己評価シート(年度末評価)

校番	067	学校名	廿日市西高等学校	校長氏名	田中 勲	全日制	本校
----	-----	-----	----------	------	------	-----	----

学校経営目標							
達成目標	評価指標	前年度	本年度		評価	理由	担当 部等
		実績値	目標値	実績値			
1 「主体的・協動的で深い学び」を授業で創造することにより、環境の変化を乗り越え、自ら進路を開拓する生徒を育てる。							
主体的・協動的で深い学びをすすめる	授業評価アンケート「あなたはこの授業を受けることで、この科目を学ぶ意欲が高まった。」の肯定率	79.8%	80%	78.2%	B	ICTを活用した授業づくりに取り組むなど、学習意欲の向上に努め、目標値を概ね達成した。	教務部
家庭学習習慣を身に付けさせる	家庭学習時間 平時平均学習時間 試験前平均学習時間	平時 74分 試験前 133分	平時 80分 試験前 140分	平時 95分 試験前 136分	B	試験前の学習時間は目標値に及ばなかったが、全体として家庭での学習時間は増加した。	
進路目標実現に向けた学力を伸長させる	1年生第3回模試と、2年生第3回模試とを比較した時の、3教科平均偏差値。45以上の割合上昇率	-4.5%	-4.0%	-1.1%	A	1年時の6.6%から2年時は5.5%となり、-1.1ポイントと大幅に減少した。	進路 指導部
	合格者数 国公立大学 広島修道大学 広島工業大学	2人 15人 11人	4人 17人 13人	2人 32人 11人	B	目標値を全てクリアすることはできなかったが、1クラス減の条件下では前年度以上の成果を出した。	
キャリア実現のための支援体制を確立する	学校評価アンケート「生徒一人ひとりに適したきめ細かい進路指導を行っている。」の肯定率	56.8%	57.0%	61.5%	A	目標を4%上回った。1年生58%、3年生が69%と目標値を上回ったが、2年生は昨年度の51%より増加するも55%にとどまった。	
挑戦を続ける受験体制を確立する	大学進学希望者における大学入学共通テストの試験3科目以上の受験者の割合	80%	85%	89%	A	総合型選抜受験者にも一般選抜受験を意識した指導を行い、結果103名が受験した。	

【評価結果の分析】

- 学びの変革に向けた3年目の取組を行い、授業評価アンケート「あなたはこの授業を受けることで、この科目を学ぶ意欲が高まった。」の肯定的評価は若干数値が下がったものの、ICTを活用した魅力ある授業づくりの展開が増えている。
- 家庭学習時間は、少しずつではあるが年々増加している。各教科における家庭学習課題が定着し、学習時間が1日平均1時間未満の生徒の割合が減少するとともに、学習が習慣化している生徒の割合が増加している。
- 国公立大学へは1月末現在、推薦入試で1名公立大学に合格している他、一般入試で10名が受験予定である。広島修道大学には、総合型及び学校推薦型での合格者が増加しているため、目標値を上回る予定である。広島工業大学へは総合型及び学校推薦型の受験者が増加したが、合格者数増にはつながらなかった。生徒の受験に対する意識付けが遅れたことと、一般入試に対応できるだけの学力の定着が不十分であったことが課題である。

- 「生徒一人ひとりに適したきめ細かい進路指導を行っている。」の肯定率の増加は、コロナ禍での制約が多くある中、各担任の面接指導や進路別ガイダンス、JSTとの面談など個に応じた継続的な指導によるものと考えられる。さらに、G suite や classi などの導入により、これまでよりも指導が充実し、3学年に限らず、全学年で昨年度の肯定率を4%程度上回る結果となった。
- 大学入学共通テスト(旧センター試験)の受験者数については、昨年度より30名程度増加した。総合型選抜及び学校推薦型選抜において入試形態や日程の変更が多く、総じて一般選抜を意識した指導を行ったことで受験者の増加につながった。ただ受験に当たり、生徒に対して進学後の学力の重要性を指導したが、試験に臨む生徒の意識を十分に高められず、得点率は低かった。

【今後の改善方策】

- 各教科で育てたい資質・能力について、具体的に生徒の目指す姿を整理し共有するとともに、年間評価計画・単元指導計画については、生徒実態に合わせ検証し改善を図る。またICTを活用した授業研究を各教科で継続していく。
- 学力向上に向け、各教科において定期的な課題提出や小テストを実施するとともに、生徒の思考を促すような授業展開と、定期試験での思考力を問う問題の出題を工夫する。
- 1,2年生での進路別・分野別ガイダンスの実施や、学校・学部研究を深めるLHRなどを通して、生徒の進路意識を高める工夫を計画し、実施する。
- 担任が行うきめ細やかな面接指導をサポートするために、情報提供を積極的に行う。また、急な進路変更を減らすため、特に就職指導に関しては1年生からの早期指導とともに、2年生の夏・冬の三者懇談会でのより深い面談を心掛ける。
- 進路が未決定な生徒の共通点として「保護者とまだ話し合っていない」点がある。保護者への意識喚起に向け、情報提供における場の設定や方法の工夫を図る。

学校経営目標							
達成目標	評価指標	前年度	本年度		評価	理由	担当部等
		実績値	目標値	実績値			
2 社会で通用する人材の育成のため、あらゆる機会を通して、傾聴し、熟慮し、行動できる生徒を育てる。							
生徒自らが探究活動に取り組む	「総合的な探究の時間」に関するアンケートの生徒自己評価肯定率	新規	60%	72%	A	ICT機器を活用した探究活動に、生徒が学びの幅の広がりを実感している。	進路指導部
基本的な生活習慣を確立させる	授業遅刻6回以上の生徒数	30人	20人	32人	C	目標値を達成できないばかりか、前年度実績値より増加した。	生徒指導部
	1日平均遅刻者数	4.2人	4.0人	5.0人	C	前年度実績値より増加した。	
生徒が主体的に校内美化に取り組む	保護者アンケート「環境美化に積極的に取り組んでいる。」の肯定率	64.1%	65.0%	65.8%	A	保護者アンケートの肯定的評価が目標値を0.8ポイント上回った。さらに校内美化キャンペーンなどの特別期間を利用した清掃活動も積極的に行った。	生徒会指導部

【評価結果の分析】

- 進路指導の側面が強い従前の「総合的な学習の時間」から、課題探究型の「総合的な探究の時間」への大きな移行を実感できた1年間であった。3年間を見通したプログラムの構築が未完成の中でのスタートであったが、廿日市市と連携した「ふるさと学習」において、探究を意識したプログラムが実施でき、これまで課題とされていたICT機器の活用が進んだことは成果であった。
- 授業中にトイレに行く生徒や、体調不良のため授業遅刻する生徒が多くいた。学年の内訳は1年生4人、2年生9人、3年生19人である。回数が多い生徒には、声掛けなど指導を継続的に行ったが、人数の減少に大きくは繋がらなかった。
- 学校遅刻者数は、前年度に比べ、休校明けの6月に多くみられており、休校中の生活リズムの乱れがその後の遅刻者数の増加につながったと考えられる。特に高校生活に定着していない1年生に遅刻者が目立った。また、大雨時の広電やバスの遅延による遅刻が多くあり、梅雨時期の指導の徹底が必要である。
- 校内美化への取組は、例年どおり通学路一斉清掃やクリーンキャンペーンなど、全校生徒に呼びかけて実施した。継続的な取組により、校内美化への意識も高いと思われる。

【今後の改善方針】

- 課題探究型のプログラムを今後充実させていくためにも、教職員への研修に加えてICT環境の充実が必要である。さらに提案に対する検証が行える環境を充実させることで、様々な事象に抱いている興味や関心を生徒の自主的な活動に結びつけたい。
- 生徒個々の準備不足や不注意による授業遅刻を減らすよう、担任と協力して粘り強く指導していく。
- 生徒指導は全教職員が行うものであるという共通理解の確認と、生徒・保護者への丹念な理解や協力体制の構築を引き続き図る。生徒指導に関する目標の掲示やキャンペーンなど意識を高める取組をしていく。
- 校内美化活動については、これまで同様、定期的に生徒会執行部を中心にボランティアを募り、推進してゆくことが望ましい。地域とも連携して、できる限り合同清掃活動等にも協力していく。

学校経営目標							
達成目標	評価指標	前年度	本年度		評価	理由	担当 部等
		実績値	目標値	実績値			
3 学校行事・部活動等においてすべての生徒が自己実現を達成できるよう支援するとともに、仲間を大切にすることを育てる。							
部活動を活性化させる	部活動加入率(1・2年生)	66%	68%	68.5%	A	4月当初からの休校の影響もあり、1年生の加入率は52.3%であったが、2年生との合計では目標値を達成した。	生徒会 指導部
	生徒・保護者アンケート「部活動は活発に活動していると思う。」の肯定率	61%	63%	59.4%	B	保護者アンケートの肯定的評価は目標値より3.6%減となった。コロナ感染症対策で各部の大会が中止・縮小となり、活動が縮小された影響が大きいと考える。	
自主活動を活性化させる	ボランティア等自主活動への参加総数(延べ数)	481人	485人	403人	B	コロナ感染症対策により外部のボランティア活動が中止となった。通学路クリーンキャンペーンや早朝挨拶運動などは実施した。	
	生徒会による挨拶運動・校内美化活動等の回数(月平均)	2回	2.5回	2.0回	B	休校期間もあったが、全校的な活動に執行部の自主的な活動を合わせると、月平均2回となった。	

【評価結果の分析】

- 部活動の新入生加入率は、年度初めの勧誘期間に休校となった影響が大きく、例年に比べ大きく下がった。
- 部活動の県大会や地区大会が中止や延期・縮小となり、校外での活動が制限されたが、各部ともに校内では、概ね例年に近い活動を行うことができた。
- ボランティア活動では、生徒の協力も多く、特に美化活動では300名近くの生徒の参加があった。
- 生徒会執行部による挨拶運動や校内美化清掃活動を不定期で行った。委員会活動が計画どおりに行えない委員会にも協力を呼びかけ、挨拶運動等を実施した。自販機のペットボトル回収や清掃も行った。

【今後の改善方策】

- 部活動について、1年生の勧誘期間を休校期間があったことにより4月から7月末に変更したが、わずかながら入部者増に向けて効果はあったと考えられるため、今後も勧誘期間を7月末まで延長することを検討する。
- 部活動の県大会や地区大会の中止や延期・縮小が今後も予想されるため、校内活動を軸に、活性化に向けた新たな取組を早急に考え、生徒の意欲向上を図る。
- ボランティア活動については、協力的な生徒も多いので、各部にも協力要請し、積極的な活動につなげていく。
- 大きな学校行事が中止や縮小となる中、生徒会執行部の活動を見直し、新しい形での活動の活性化を図る。

学校経営目標							
達成目標	評価指標	前年度	本年度		評価	理由	担当部等
		実績値	目標値	実績値			
4 家庭・地域社会から理解され、信頼されるために開かれた学校づくりを推進する。							
家庭・地域に向けて情報を配信する	行事、部活動内容についてのHP更新回数	77回	70回	55回	B	行事の中止が相次ぎ、目標値を下回ったが、小さなニュースもとらえ、積極的に更新した。	総務部
	生徒・保護者アンケート「本校HPを見ている。」の肯定率	79%	80%	81.8%	A	更新努力もあり、目標値を超えることができた。	
本校の教育内容を発信する	「オープンスクール」アンケートの肯定率	—	70%	97.7%	A	オープンスクールは中止したが、学校説明会の内容を刷新、充実させ、アンケートを実施したところ、目標を大きく上回った。	

【評価結果の分析】

- HPの更新については、多くの行事や部活動の大会が中止となったため、掲載コンテンツに苦慮したが、小さな出来事を含め、実施した行事・取組をその都度、積極的にHPに掲載することで、回数の増加を図った。
- 「本校HPを見ている」の割合は80%を超え、目標を達成できた。年度当初に休校期間があり、家庭への連絡も含め、この期間中に多くの保護者が情報収集のためにHPを閲覧したことも要因と考えられる。
- 「オープンスクールアンケートの肯定率」については、オープンスクールの中止に伴い、10月に実施した学校説明会でのアンケート結果で評価したところ、かなり高い評価を得ることができた。夏に行うオープンスクールと異なり、本校の受験を考えている生徒が参加者を占めている学校説明会では、評価が上がることに必然性があるが、それを考慮しても高い数値と言え、一定の手ごたえを感じた。

【今後の改善方策】

- 受験を希望する中学生はかなりの割合で本校HPを閲覧しており、特に部活動のページについて関心が高い。各顧問が頻繁に更新するよう、呼びかけとともに、更新方法についての周知徹底を図る。また、HPを閲覧しやすくする工夫や、Classi等での閲覧の呼びかけ、新コンテンツの案内等、取組を継続する。
- 8月に実施するオープンスクールは、暑さや人の多さなど課題要素も多い。今年度の変更を踏まえ、内容の工夫に加えて、実施日程についても検討を行う。

学校経営目標							
達成目標	評価指標	前年度	本年度		評価	理由	担当部等
		実績値	目標値	実績値			
5 教職員が達成感や充実感をもち、生き生きと働くことができるよう職場環境を整える。							
教職員が生徒と向き合う時間を確保する	業務改善アンケート「生徒と向き合う時間が確保できている」の肯定率	55.3%	60%	55.0%	C	前年度より0.3ポイント下げた。コロナ禍のICTの導入により授業準備・教材研究により時間をかけてチャレンジした結果だと分析する。	全員
教職員が業務の改善に取り組み、業務の質的な向上を図っている。	時間外縮減に対する意識の向上(定時退校時刻1時間以内の達成率)	新規	60%	65.1%	B	教職員に対し声かけ等を行い、目標には届かなかったが1時間以内の退校率を65%にまで引き上げた。	全員

【評価結果の分析】

- コロナによる臨時休業期間が約2ヶ月におよび、休校明けの6月、7月に時間外勤務が多く発生した。2学期以降、校務運営会議等で組織内の情報共有を行い、重点的に取り組む内容を明確にすることで、業務の「見える化」に努めた。引き続き、業務の計画性の向上を図りたい。また、部活動休養日に併せて促進した教職員の定時退校は、一定の成果は出たものの、徹底まではいかず、個別の面談等を通じた改善が必要である。

【今後の改善方策】

- 重点的に取り組む業務を明確にするとともに、組織的な業務の精選・改善を進める。
- 衛生委員会や校務運営会議、職員会議にて、業務改善についてこれまでの課題を洗い出し、具体的な改善策を各部署で検討し、実効力のあるものにする。

## 令和2年度自己評価シート(年度末評価まとめ)

校番	067	学校名	廿日市西高等学校	校長氏名	田中 勲	☑・定・通	☑・分
----	-----	-----	----------	------	------	-------	-----

## 1 評価結果の分析

## (1) 成果

- 学びの変革に向けた3年目の取組を行い、ICTを活用した魅力ある授業づくりの展開が増えている。
- 家庭学習時間は年々増加している。各教科における家庭学習課題が定着し、学習が習慣化している生徒の割合が増加している。
- 各担任の面接指導や進路別ガイダンス、JSTとの面談など個に応じた継続的な指導が行われ、さらに、G suite や classi などの導入により、これまでよりも指導が充実してきている。
- 進路指導の側面が強い従前の「総合的な学習の時間」から、課題探究型の「総合的な探究の時間」への大きな移行を実感できた1年間であった。廿日市市と連携した「ふるさと学習」において、探究を意識したプログラムが実施でき、これまで課題とされていたICT機器の活用が進んだことは成果である。
- 校内美化への取組は全校生徒に呼びかけて実施した。継続的な取組により、校内美化への意識も高まったと思われる。ボランティア活動では、生徒の協力も多く、特に美化活動では300名近くの生徒の参加があった。
- オープンスクールの中止に伴い、10月に実施した学校説明会でのアンケート結果では、本校の教育内容紹介にかなり高い評価を得ることができた。

## (2) 課題

- 生徒の受験に対する意識付けが遅れたことと、一般入試に対応できるだけの学力の定着が不十分であった。
- 授業中にトイレに行く生徒や、体調不良のため授業遅刻する生徒が多かった。回数が多い生徒には、声掛けなど指導を継続的に行ったが、人数の減少に大きくは繋がらなかった。
- 学校遅刻者数は、前年度に比べ、休校明けの6月に多くみられた。休校中の生活リズムの乱れがその後の遅刻者数の増加につながった。
- 生徒指導に関する目標の掲示やキャンペーンなど意識を高める取組をしていく必要がある。
- 課題探究型のプログラムを今後充実させていくためにも、教職員への研修に加えてICT環境の充実が必要である。
- 部活動の新入生加入率は、年度初めの勧誘期間に休校となった影響が大きく、例年に比べ大きく下がった。
- 部活動休養日に併せて促進した教職員の定時退校は、一定の成果は出たものの徹底まではいかず、個別の面談等を通じた改善が必要である。

## 2 今後の改善方策

- 各教科で育てたい資質・能力について、具体的に生徒の目指す姿を整理し共有するとともに、年間評価計画・単元指導計画については、生徒実態に合わせ検証し改善を図る。またICTを活用した授業研究を各教科で継続していく。
- 学力向上に向け、各教科において定期的な課題提出や小テストを実施するとともに、生徒の思考を促すような授業展開と、定期試験での思考力を問う問題の出題を工夫する。
- 提案に対する検証が行える環境を充実させることで、様々な事象に抱いている興味や関心を生徒の自主的な活動に結びつける。
- 受験を希望する中学生はかなりの割合で本校HPを閲覧しており、特に部活動のページについて関心が高いので、各顧問が頻繁に更新するよう、呼びかけとともに、更新方法についての周知徹底を図る。
- 生徒指導は全教職員が行うものであるという共通理解の確認と、生徒・保護者への丹念な理解や協力体制の構築を引き続き図る。
- 校内美化活動については、これまで同様、定期的に生徒会執行部を中心にボランティアを募り、推進していき、地域とも連携して、できる限り合同清掃活動等にも協力していく。
- 部活動の県大会や地区大会の中止や延期・縮小が今後も予想されるため、校内活動を軸に、活性化に向けた新たな取組を早急に考え、生徒の意欲向上を図る。

## 3 学校関係者評価結果を踏まえた今後の改善方策(学校関係者評価実施後に記入する。)

- 従前の進路を意識した「総合的な学習の時間」から、校長の「突き詰めよう」というスローガンのもと、ふるさと学習など「総合的な探究の時間」に大きな変化を実感できた。来年度以降、ぜひ地域にある資源を積極的に活用して、課題発見プログラム等を実践してもらいたい。
- 生徒は指示を出せばやることはできるが、こういう場合はどうなる？と考えることをせず、あきらめも早いように思う。社会に出ることを想定して、耐性をつけること、好奇心を持ち、知ろうということを追求める姿勢を高校生活で培ってほしい。来年度以降も廿日市西高等学校の特色を明確にし、重点項目を示して、生徒と協働して達成目標を立て、取組を実施していくような学校であることを期待する。

## 令和2年度学校関係者評価シート(年度末評価)

令和 3年 3月 2日

校番	067	学校名	廿日市西高等学校	校長氏名	田 中 勲	☉・定・通	☎・分
----	-----	-----	----------	------	-------	-------	-----

評価項目	評価	理 由・意 見
目標、指標、計画等の設定の適切さ	B	<p>学校経営目標にある「主体的・協働的で、深い学び」ですが、3月からの学校休業が新年度の4月以降も継続する緊急事態の中、いろいろご苦労されたと思います。</p> <p>今年度の目標や指標は、前年度の実績を踏まえて、自校の実態を適切に把握した目標や指標である一方、生徒・保護者・地域が求める理想とは差があるのではないかと感じます。廿日市西高等学校の特色を明確にした取組に対して重点項目を示して一点突破していくことも取組のひとつの方法だと考えます。生徒と協働して達成目標を立て、取組を実施していくような学校であれば良いと思います。</p>
目標の達成状況の評価の適切さ	A	<p>指標に基づき、数値を示して評価規準に基づいて適正に評価されていると思います。ただ、数値目標のみでの評価になっているので、実態と乖離しないように望みます。休業中の学校と家庭との学習方法で、ICTを活用した授業づくりには先生方も苦労されたと察しますが、学習意欲向上に努められ、目標値を概ね達成されたことは評価します。</p> <p>コロナ禍の影響により部活動やボランティアは大きく制限されている中、美化活動には300名近くの生徒が集まったことなど、中止ではなく工夫して実施したことについては、数値の達成状況だけでなくプロセス評価もできると思います。</p>
目標達成に向けた取組の適切さ	B	<p>コロナ禍の制約もあり取組が難しいと推察されますが、よくできていると思います。新学期からの休業再開後の影響は、特に高校生活に定着していない新1年生に遅刻者の多さなどに現れたようです。</p> <p>新1年生の部活の加入率も、目標値を下回っていましたが、2年生との合計で目標率が達成していました。先生方の指導による1年生の加入率成果を期待したいと思います。今年度は、貴校が取り組んできた内容について、実際に見聞きしていないことから、評価シートだけでは取組の適切さについての評価が難しく感じました。</p>
評価結果の分析の適切さ	B	<p>数値の結果に対して、補填した内容が示されていることから、単なる数値だけの評価に終わらず、業務の「見える化」について、積極的に取り組まれ、より具体的な学校の状況が把握できました。</p> <p>コロナ感染対策により、いろいろな行事が中止になり、分析も前年度と比較しにくいところですが、学校のHPの更新努力などで、家庭への情報発信もうまくできたのではと評価します。</p>
今後の改善方策の適切さ	A	<p>学校のホームページの活用や、ICTの活用により、従前の「総合的な学習の時間」から「総合的な探求の時間」への大きな実感ができた1年であったようで、今後の改善対策の適切さを概ね評価します。次年度に向けて、継続して取り組むこと、改善を図ることが示され、次年度の学校の取り組むべき内容が評価シートから読み取ることができます。</p>
総合評価	A	<p>今までにない「コロナ感染対策」により、長期の学校休業の生徒達への影響は大変だったと思います。コミュニティースクールとして、様々な情報発信に努められ社会(保護者・地域・近隣中学校)が求める学校づくりを進めておられると感じます。評価シートの作成が細かく丁寧に行われ、自己点検や評価に真摯に取り組んでおられ、校長を中心とした組織体制や開かれた学校づくりが確立されている成果だと思います。</p> <p>特に、ホームページは学校全体で取組を進められ、これまで校内外での生徒の活動の様子が見えなかったものが見えるようになったと思います。廿日市市と連携した「ふるさと学習」や、ダンス部の中四国大会の優勝も廿日市西高等学校の自慢できる活動だと思います。日々の更新は大変ですが、手ごたえを感じていただき継続して楽しみながら取り組んでいただきたいです。廿日市西高等学校の生徒さんが、「自分は廿西で成長した。学んでよかった。学校が楽しい。」と思えるかどうか、そのあたりも指標になるのではないのでしょうか。</p> <p>今後の評価方法として、ホームページやアンケート調査だけではなくツイッター等も利用して生徒・保護者からの反応も読み取れるようにしたら良いと思います。その反応をAIで解析しプロファイルに役立てるようであれば、違った目標設定になるかもしれません。</p>